

## 高齢者施設及び施設居住者の温熱環境に関する実態調査

奈良女大生活環境 ○円尾ゆかり 久保博子  
磯田憲生 梁瀬度子

〔目的〕 高齢者の室内温熱環境への対応の仕方に関する研究の一環として、高齢者施設における冷暖房設備の現況及び居住者の冷暖房に関する意識や住まい方を把握し、今後の環境改善の提案に対する基礎資料を得ることを目的とする。

〔方法〕 全国の各種高齢者施設1256件の管理者を対象に、冷暖房設備に関するアンケート調査を郵送により行った。調査期間は平成6年6～7月、回答数は523件、回収率は41.6%であった。また、奈良県に所在する高齢者施設3ヶ所において、居住者を対象に冷暖房についての聞き取り調査を平成6年8～9月、平成7年1月に行った。

〔結果〕 「冷房」設備では、共用部分で設置率が高く、私的部分である居間では設置率に施設の種類により差がみられた。「暖房」設備では、居間においては各種施設とも設置率は70%を越していた。また、高齢者にとって必要と考えられるトイレ暖房は特養で68%と高く、居住者への配慮がなされていると言える。しかし「冷暖房開始時期」については、「毎年決まった日時」「管理者が暑い・寒いと認めたとき」という回答が各種施設とも多かった。居住者にはその時期についての不満はほとんどみられなかったが、冷房開始前や冷房設備が無い場合、扇風機等を持ち込む等の対処をとっており、冷房開始後も約半数がそれらを併用していた。一方、日常の着衣では、冷房設備の有無に拘わらず下着の重ね着が顕著であり、温熱への対応よりも生活習慣となっていると考えられる。また、年齢が上がるにつれ枚数が増える傾向がみられた。以上のことから、居住者と管理者側の温冷感の差異が示唆される面もあり、暖房についての結果も含めて今後更に検討する。